

# 日本語学会第 157 回大会 プログラム

会 長	田窪 行則
大会運営委員長	山越 康裕
大会実行委員長	吉田 和彦

期 日：2018年11月17日（土）・18日（日）

会 場：京都大学吉田キャンパス（〒606-8501 京都市左京区吉田本町）

Tel/Fax：075-753-2862, 075-753-2827/075-753-2862

E-mail：lsj157ku@gmail.com

※駐車場はありませんので、自動車でのご来場はご遠慮下さい。

※キャンパス内は指定された場所以外禁煙です。

\*\*\*\*\*

## —— 第1日（11月17日） ——

10:00-12:30	評議員会（評議員の方はご出席下さい。詳細は別便の案内をご参照下さい。）	文学部校舎地下会議室
12:00-17:10	受付	総合研究2号館1階ホール
13:00-17:40	口頭発表（詳細は2-3頁にあります。）	文学部校舎・総合研究2号館
18:15-20:15	会員懇親会	百周年時計台記念館2階 国際交流ホール

## —— 第2日（11月18日） ——

9:30-13:00	受付	文学部校舎2階ホール
10:00-12:00	ワークショップ（詳細は4頁にあります。）	文学部校舎1階・2階 A・C・D・E会場
11:30-12:50	ポスター発表（詳細は4頁にあります。）	文学部校舎2階
13:00-13:20	会長挨拶，開催校挨拶，日本語学会学会賞授賞式	百周年時計台記念館1階 百周年記念ホール
13:20-16:40	<p><b>日本語学会 80周年記念特別公開シンポジウム（公開）</b></p> <p>「新村出初代会長から80年——言語学はいま？そしてこれから？」</p> <p>&lt;司会&gt; 吉田和彦（京都大学）</p> <p>&lt;題目・登壇者&gt;</p> <p>「新村出とフィールド言語学」千田俊太郎（京都大学） コメンテーター：米田信子（大阪大学）</p> <p>「新村出と歴史言語学」アダム・キャット（京都大学） コメンテーター：小林正人（東京大学）</p> <p>「新村出と言語理論」定延利之（京都大学） コメンテーター：野田春美（神戸学院大学）</p> <p>本シンポジウムは、JSPS 科研費 18HP0002 の助成を受けたものです。</p>	百周年時計台記念館1階 百周年記念ホール

シンポジウムはどなたでも無料でご参加いただけます。

■口頭発表（11月17日(土) 13:00-17:40)

	<b>A会場（文学部第1講義室）</b> 司会：[1-2] 山口 直人, [3-4] 伊藤 さとみ, [5-7] 金 善美	<b>B会場（文学部第2講義室）</b> 司会：[1-2] 小野 創, [3-4] 小泉 政利, [5-7] 林 範彦
13:00-13:30	[A-1] 朱 茜 現代中国語の2種類の複雑述語“来V”構文と“V来”構文の相違点	[B-1] 岸山 健, 広瀬 友紀, 峰見 一輝, 多田 明佳 再分析と依存要素間距離の交互作用 —自己ペース読文実験による検証—
13:40-14:10	[A-2] 王 丹楓 中国語動量詞が数える個体と集合イベント	[B-2] 矢野 雅貴, 諏訪園 秀吾, 荒生 弘史, 安永 大地, 大石 衡聰 形態統語的逸脱文に対する適応効果 —事象関連電位を指標として—
14:20-14:50	[A-3] 胡 亜敏 中国語の動詞重複分裂文における ROOT 移動仮説	[B-3] Kentaro NAKATANI, Shoko SHIDA Effects of the inferred affectedness factor in the next-mention preferences in Japanese
15:00-15:30	[A-4] ホアーン ティ ラン フォン ベトナム語話者による日本語漢語理解における日越両言語の語彙使用頻度と音韻類似性の影響	[B-4] 浅原 正幸 単語埋め込みに基づくサプライザルのモデル化
15:30-15:50	(休憩)	(休憩)
15:50-16:20	[A-5] 高木 丈也 ハイブリッド言語としての黒龍江省朝鮮語	[B-5] 倉部 慶太 ジンポー語における動詞連続構文の制約
16:30-17:00	[A-6] 金 智賢 分裂文から見る日韓のコピュラの特徴	[B-6] 黄 海萍 チワン語龍茗方言における声調の変調 —2音節連続語を中心に—
17:10-17:40	[A-7] 林 廷修 新聞における日・韓外来語の使用傾向	[B-7] 鷺澤 拓也 ベトナム語の機能語 <i>của, sự, không, bị</i> の文法化過程の検証 —16~19世紀の文献から—

	<b>C会場（文学部第3講義室）</b> 司会：[1-2] 尾谷 昌則, [3-4] 宮地 朝子, [5-7] 下地 理則	<b>D会場（文学部第4講義室）</b> 司会：[1-2] 松浦 年男, [3-4] 荒川 慎太郎, [5-7] 田中 真一
13:00-13:30	[C-1] 朱 冬冬 自得型テモラウ文の意味・用法について	[D-1] 小林 祐貴, 竹安 大 促音の知覚における先行母音・後続母音持続時間の影響：鹿児島方言若年層の場合
13:40-14:10	[C-2] 志波 彩子 受身・可能とその周辺構文によるヴォイス体系の対照言語学的考察 —古代日本語とスペイン語—	[D-2] 青井 隼人 北琉球沖縄語伊江方言の破裂音
14:20-14:50	[C-3] 孟 鷹, 大島 デイヴィッド 義和 指示詞の有標的な用法 —類型論の確立を目指して—	[D-3] 平子 達也 出雲仁多方言の母音をめぐる音変化について
15:00-15:30	[C-4] 浅岡 健志朗 「ビールに行こう」？ —移動の目的を明示する表現に関するチェコ語と日本語の対照	[D-4] 塚越 柚季 『リグ・ヴェーダ』の韻律における印欧祖語の喉音の反映と方言差
15:30-15:50	(休憩)	(休憩)
15:50-16:20	[C-5] 相良 啓子 日本手話, 台湾手話, 韓国手話の語における意味の変化	[D-5] 植田 尚樹 中国語・内蒙古語・モンゴル語の語頭閉鎖音における VOT の差異
16:30-17:00	[C-6] 大島 一 大阪泉州方言における「ら」の複数性	[D-6] Céleste GUILLEMOT, Seunghun J. LEE An interaction between voicing and tone in Dränjongke fricatives
17:10-17:40	[C-7] 林 由華, ケナン・セリック 宮古語の動詞形態論における拡張語幹：あるべきか, あらざるべきか	[D-7] Yu TANAKA Accentuation in Tokyo and Kyoto Japanese: Toward a unified account

	<b>E 会場（文学部第 6 講義室）</b> 司会：[1-2] 牧 秀樹, [3-4] 上山 あゆみ, [5-7] 宮本 陽一	<b>F 会場（文学部第 7 講義室）</b> 司会：[1-2] 松本 曜, [3-4] 中村 芳久, [5-7] 成田 広樹
13:00-13:30	[E-1] 森山 倭成 スロッピー解釈の三つの出自	[F-1] 鍋島 弘治朗, 堀江 薫, 水本 篤, プラシント・バルデン, ジェブカ・ラフ アウ, 北野 浩章, 堀口 大樹, 古本 真, オ・ヨンミン, エルチュルク・ダムラ 線条的類像性 — 認知類型論的アプローチ—
13:40-14:10	[E-2] 臼井 悠香 前置詞残留からみる削除現象の派生	[F-2] 朴 智娟 日本語オノマトペの統語転換現象に対する認知言語学的ア プローチ — 副詞・動詞・形容動詞が名詞になる場合—
14:20-14:50	[E-3] YAMASHITA Hideaki Argument Ellipsis of Focused Phrase	[F-3] 萩澤 大輝 Typo, thinko, scanno : エラーを表す-o の記述
15:00-15:30	[E-4] Shulun, Hideki MAKI, Megumi HASEBE, Lina BAO, Yuta SAKAMOTO Leftward and rightward clause movement in Mongolian	[F-4] 大谷 直輝 英語の <i>better off</i> 構文について
15:30-15:50	(休憩)	(休憩)
15:50-16:20	[E-5] 佐久間 篤 東京方言における主格属格交替現象と総記のガに関し て	[F-5] 林 慎将 インターフェイスにおけるラベルの働きについて
16:30-17:00	[E-6] 中島 優 日本語の wh 構文の考察: 島の制約と wh 句の構造	[F-6] 岡 俊房 他動詞虚辞構文と主語倒置構文: ラベル付けを排した素 性一致理論による分析
17:10-17:40	[E-7] 大野 公裕 敬語表現の統一的説明に向けて	[F-7] Hisatsugu KITAHARA, Samuel D. EPSTEIN, T. Daniel SEELY Can “determinacy + PIC” explain descriptions of remnant movement asymmetries?

	<b>G 会場（総合研究 2 号館第 8 講義室）</b> 司会：[1-2] 大島 デイヴィッド 義和, [3-4] 小磯 花絵, [5-7] 中村 渉	<b>H 会場（総合研究 2 号館第 9 講義室）</b> 司会：[1-2] 田村 幸誠, [3-4] 堀江 薫, [5-7] 堀 博文
13:00-13:30	[G-1] 片岡 恋惟, 大野 公裕 不定代名詞束縛における再構築効果ととりたて詞「も」 の分析	[H-1] 今西 一太 アミ語の -ay における名詞, 動詞, 認識モダリティの 関連
13:40-14:10	[G-2] 山田 彬亮, 窪田 悠介 ノとコト再考: 主文述語の新たな意味分類に向けて	[H-2] 山部 順治 オリア語における, 2つの人称・格制約
14:20-14:50	[G-3] 窪田 悠介, 峯島 宏次 前提投射の実例のツリーバンクによる検索	[H-3] 野元 裕樹, 大久保 弥 ペルシア語の焦点構文におけるコピュラの生起制限
15:00-15:30	[G-4] 日高 俊夫, 今西 真弓 所有を表す have got における発話行為性	[H-4] 河内 一博 クブサビニ語の名詞の定性の区別: Dryer の定性の標 識の類型論的枠組みでの分析
15:30-15:50	(休憩)	(休憩)
15:50-16:20	[G-5] YAGI Yusuke Sublexical modality in permission and obligation causative	[H-5] 諸隈 タ子 ケチュア語アヤクーチョ方言の示差的格標示が示す対 比性
16:30-17:00	[G-6] YU Shaoyun, TAMAOKA Katsuo A contrastive study on the asymmetry of nominative and accusative case drops in Japanese and Korean	[H-6] 江畑 冬生 トゥバ語における疑問詞疑問接辞の否定文での用法: egophoricity からの説明
17:10-17:40	[G-7] Shun IHARA What ‘-nakereba naranai’ should and must be	[H-7] 外賀 葵 ダウンシャン語のコピュラにおける共時的考察

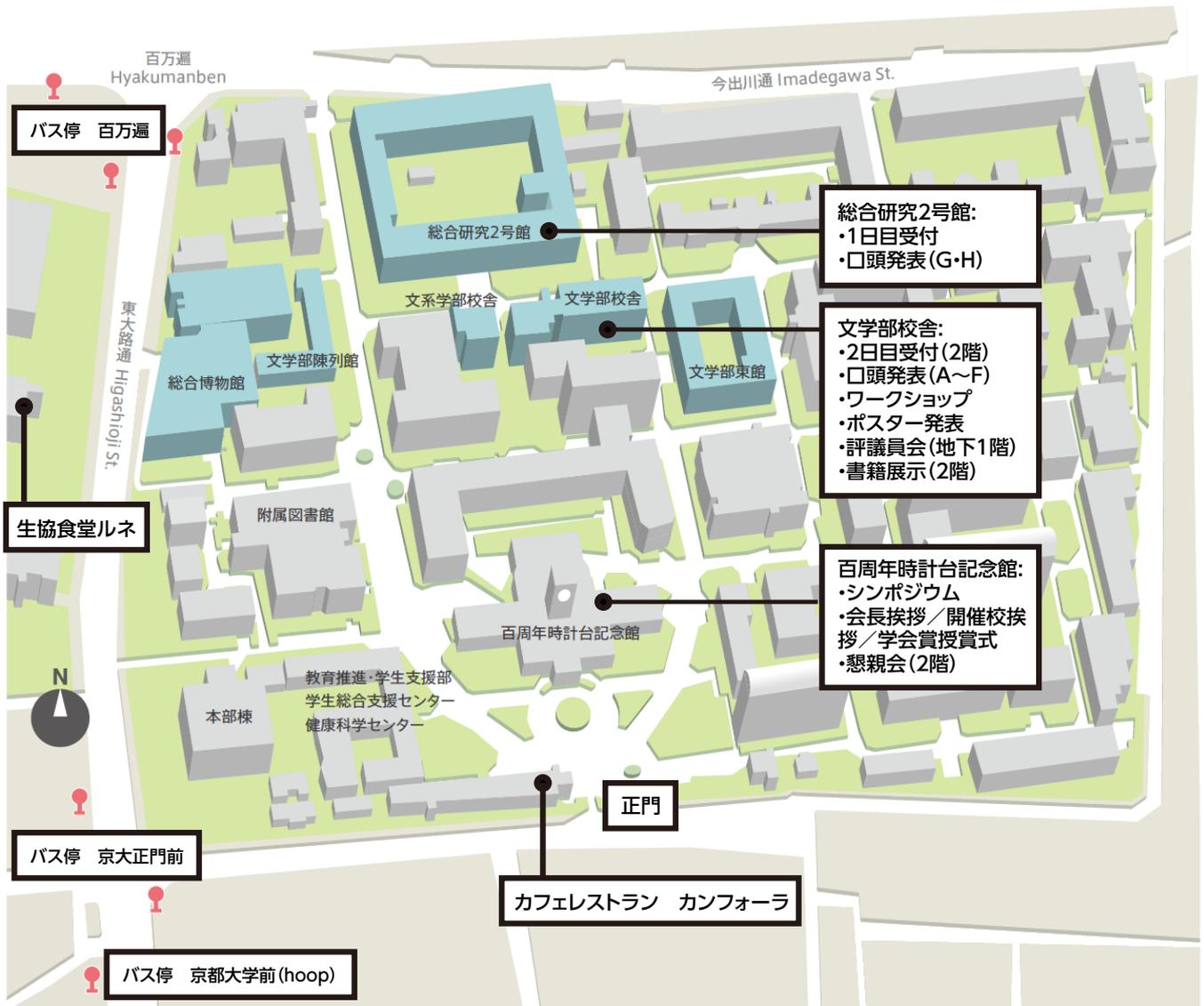
■ワークショップ（11月18日(日) 10:00-12:00)

文学部第1講義室	[W-1] 移動経路の種類とそのコード化：通言語的ビデオ実験による移動表現の類型論再考 企画者・司会者: 松本 曜
	[W-1-1] フランス語移動表現における経路表示と類型論 守田 貴弘
	[W-1-2] クブサビニ語とシダーマ語における通言語的傾向と類型タイプの現れ 河内 一博
	[W-1-3] タガログ語移動表現の経路表示 長屋 尚典
	[W-1-4] タイ語移動表現の経路表示 高橋 清子
文学部第3講義室	[W-2] 叙述類型論の諸問題 企画者: 岩男 考哲, 益岡 隆志 司会者: 益岡 隆志
	[W-2-1] 属性の起源 三原 健一
	[W-2-2] 「評価属性」をめぐって 岩男 考哲
	[W-2-3] 属性叙述におけるテンス・アスペクト体系 鈴木 彩香
	[W-2-4] 複合語形成における事象から属性へのシフト —「X+動詞連用形」型複合名詞を中心に— 由本 陽子
文学部第4講義室	[W-3] 名詞構文を巡る諸問題 企画者・司会者: 江口 清子
	[W-3-1] ハンガリー語の所有接辞について 江口 清子
	[W-3-2] 日本語同格名詞句から見る名詞句の機能について 眞野 美穂
	[W-3-3] シンハラ語の名詞補文節について 岸本 秀樹
文学部第6講義室	[W-4] 日本語の呼びかけイントネーション 企画者・司会者: 窪菌 晴夫
	[W-4-1] 東京方言の呼びかけイントネーション 溝口 愛
	[W-4-2] 鹿児島方言と甕島方言の呼びかけイントネーション 窪菌 晴夫
	[W-4-3] 小林方言の呼びかけイントネーション 平田 秀

■ポスター発表（11月18日(日) 11:30-12:50)

文学部第5演習室	[P-1] 荒川 慎太郎 西夏文字における、いくつかの左下要素の筆画について
文学部第6演習室	[P-2] 井上 雅勝, 藏藤 健雄, 松井 理直 日本語量化詞「ほとんど」の疑似量化解釈—ガーデンパス現象による実証的検討—
文学部第7演習室	[P-3] カルリノ・サルバトーレ 伊平屋方言の動詞・形容詞のアクセントについての考察
文学部第7講義室	[P-4] 発表取り消しとなりました

・京都大学吉田キャンパスマップ



・主要鉄道駅からのバス路線

鉄道駅	乗車バス停	バス系統	所要時間	下車バス停
地下鉄烏丸線今出川駅	烏丸今出川	203・102・201	約 10 分	京大正門前 または 百万遍
阪急河原町駅	四条河原町	201・31・17・3	約 20 分	
地下鉄東西線東山駅	東山三条	206・201・31	約 15 分	
JR・近鉄京都駅	京都駅前	17・206	約 35~40 分	京都大学前
	京都駅八条口	hoop (土日は午後のみ)	約 30 分	

※京阪出町柳駅から京都大学へは、東へ徒歩約 15 分、バスで約 5 分（系統番号 201・203・102・17 で停留所一つ）です。

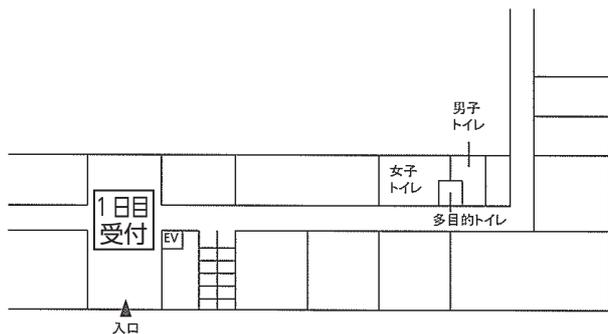
※経路の詳細は、大会下記ページをご覧ください。QR コードからもリンクしています。

<http://www.speech-data.jp/ljsj157/michi.html>

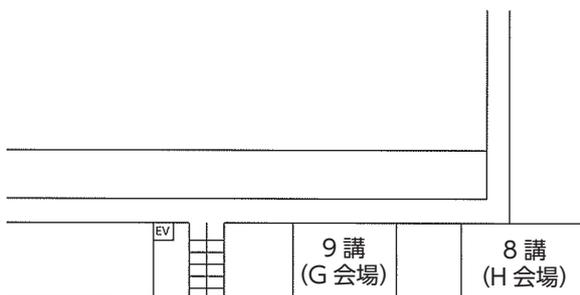


・校舎案内

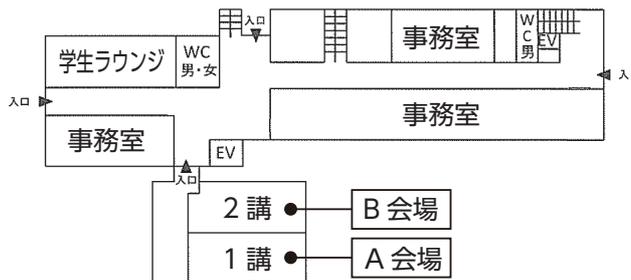
【総合研究2号館1階】



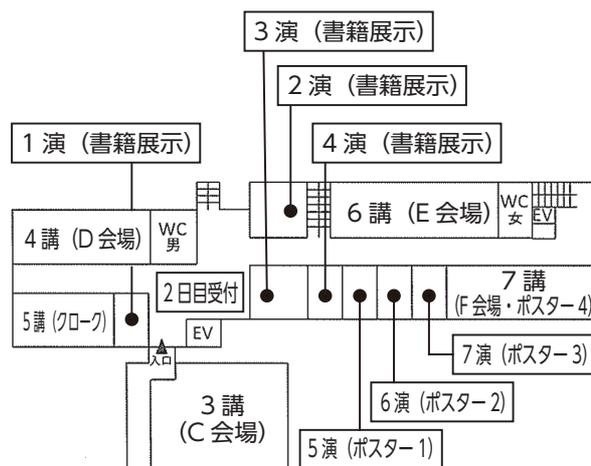
【総合研究2号館地階】



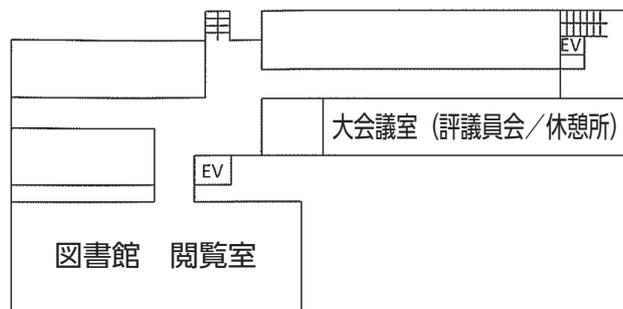
【文学部校舎1階】



【文学部校舎2階】



【文学部校舎地下1階】



事務局からのお知らせ

◆大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震で被災された会員の方に対する会費免除について

このたびの大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震で被害を受けられた会員のみなさま、心よりお見舞い申し上げます。

日本言語学会では大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震により被害を受けられた会員に対し、2018年度の会費を免除いたします。大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震による被害を理由とする申請であれば、申請者の居住地は問いません。

今年度入会される方についても、該当される方は2018年度の会費を免除いたします。

免除を希望される方は、以下の点を電子メールまたは文書（FAX可）にて学会事務支局までお知らせください。

(1) 氏名, (2) 生年月日, (3) 会員種別（一般・学生）, (4) 所属先, (5) 住所, (6) メールアドレス, (7) 被災状況, (8) (5)と別の住所に仮住まいの場合の連絡先（住所, 電話番号, メールアドレスなど）

※申請期間は2019年3月31日（日）までといたします。

## お知らせ

### ◆大会会場でのインターネットの利用について

第157回大会会場では docomo 他 の公衆無線サービス（サービスに加入している場合）と eduroam が利用できます。学内 LAN の利用が必要な方は大会受付にお申し出ください（ただし電波がつながりにくい場所もあり、利用者数にも制限があります）。予稿集は必ず事前にダウンロードしてお越しください。

### ◆大会参加費と予稿集

大会参加者は大会受付にて参加費（一般会員 2,000 円、学生会員 1,000 円、一般非会員 3,000 円、学生非会員 2,000 円）をお支払いの上、名札をお受け取り下さい。予稿集は大会の 1 週間前より学会ホームページから電子版予稿集（PDF ファイル）がダウンロードできるようになりますので、事前にダウンロードを済ませてから会場にお越し下さい。紙媒体での予稿集頒布は行っておりませんのでご注意ください。

### ◆出張依頼状

所属機関長宛の出張依頼状をご入用の方は、返送先を明記して切手を貼った返信用封筒を同封の上、**11月2日（金）（必着）**までに学会事務支局までお申し込み下さい。

### ◆大会期間の昼食について

大学西部構内生協食堂ルネは、土曜日は 11 時から 19 時 30 分まで、日曜日は 11 時から 14 時まで営業しています。正門西のカフェレストラン「カンフォーラ」は土曜日、日曜日とも 11 時から 15 時まで営業しています。また、キャンパス周辺には飲食店がたくさんあります。

### ◆会員懇親会の申し込み

会員懇親会へ参加ご希望の方は、大会当日に受付でお申し込み下さい。会費は、一般 5,000 円、学生 3,000 円を予定しています。

### ◆保育室の設置

保育室を設置します。保育室の利用を希望される方は、学会ホームページ「保育室の設置について」をお読みになった上で、2018 年 10 月 26 日（金）までに保育室担当宛（[lsj.childcare@gmail.com](mailto:lsj.childcare@gmail.com)）に御連絡下さい。

- ・利用可能時間：11月17日（土）12:45-18:00、11月18日（日）9:50-16:50
- ・料金：お子様1人あたり1時間につき500円

### ◆手話通訳などについて

手話通訳、ノート・テイクなどをご利用希望の方は、学会ホームページの大会案内をご覧ください。受付締切は10月15日（月）です。

### ◆書籍展示

書籍展示は、文学部校舎2階第1演習室、第2演習室、第3演習室、第4演習室の各教室で行います。

### ◆大会予稿集、『言語研究』のバックナンバー

前回大会に続き、今大会においても余剰分の『言語研究』バックナンバーを大会会場において無料頒布します（郵送等のサービスは行っておりません）。なお、大会予稿集および『言語研究』のバックナンバーは引き続き郵送での注文も受け付けております。購入をご希望の方は、在庫状況を学会ホームページでご確認の上、学会事務支局までお申し込み下さい。

### ◆クロークの設置

クロークを設置します。文学部校舎2階第5講義室です。

### ◆資料展示コーナー

会員相互の情報交換のための資料展示スペースを用意します。会員に紹介したい学会、研究会、講演会のパンフレット等を置くことができますのでご利用下さい。（配布物は当日受付にご持参下さい。）

**次回大会予告（2019年春季大会：第158回大会）**

場 所：一橋大学国立キャンパス（〒186-8601 東京都国立市中 2-1）

日 程：2019年6月22日（土）・23日（日）

公開シンポジウム，口頭発表，ワークショップ，ポスター発表

研究発表募集：**学会ホームページから発表申し込みができます。**

・発表応募締め切り **2019年3月20日(水)（必着）**

・採否通知 **2019年4月中旬**

\* 宿泊施設の混雑が予想されます。宿泊を必要とされる方は早めの予約をお薦めします。

**問い合わせ先**

日本言語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacos.com